

体験活動『校庭の樹木ウォッチング』

11月6日、福岡市早良区の百道小学校5年生131名を対象に、五感を使って楽しくふれあいながら樹木や自然への興味・関心を高め、自分たちと自然との関りに気づき、自然を守ることの大切さを学ぶ事を目的とした森林環境教育を実施しました。プログラムは、「木木クイズ」「フィールドビンゴ(校庭の樹木)」「樹木ウォッチング」「森林に関する講話」です。



「地球で一番大きな生き物は？」のクイズでは、様々な意見が出ましたが「木」という正解に子どもたちから驚きの声があがりました。また日本一太い木について鹿児島県蒲生のクスノキの樹周と同じ24mのロープでスタッフが子どもたち全員を囲むと、その大きさを実感できたようでした。

次にグループ毎に校庭で行った「フィールドビンゴ」では「匂いのする葉っぱ」や「木の実」などを楽しそうに探す姿が見られました。

樹木ウォッチングではインストラクターと一緒に10種類の樹木を観察しました。「ネズミモチ」の実を味わった子どもたちは「苦い!」、薬にもなるとの説明に「良薬口に苦し」を実感したようです。クロマツとアカマツの葉の違いも触って体感、クスノキの葉をもんで匂いを嗅ぎ、樟脳と木片のサンプルを見て人の生活とのつながりにも気づいたようです。私のグループでは、子どもたちが集めたソメイヨシノの葉で緑から茶色までのグラデーションを作りました。「茶色の葉はこれからどうなる？」と尋ねると「土になる」、「土にしてくれるのは？」と更に問うとダンゴムシなどの答えが返ってきました。樹木と他の生き物とのつながりや自然の循環への気づきにつながってくれるといいなと思っています。

大型スクリーンでの森林に関する講話も対話を交えて行われ、元気よく答えたり集中して講話を聴いたりする子どもたちの姿が印象的でした。

学校からは「校庭の木について、たくさん知らないことを教えていただき、子どもたちもとても喜んでいました。子どもたち、そして教員の私たちが大変勉強になり、木について興味が深まったことを感謝しています。」とのお礼のお手紙もいただいています。

スタッフ；鶴田、野見山、千種、岩崎、田川、常藤、藤原、諸石、大森、溝口、薛、轟、出口、佐伯(14名)(記 佐伯)